

2020年12月18日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会 (JEMIMA)

電気計測器の中期見通し2020～2024年度版 発行のお知らせ

2020年度の電気計測器全体の売上見込みは前年度比-5.6%、
2020～2024年度の年平均成長率は+0.7%とほぼ横ばいの見通し。

一般社団法人日本電気計測器工業会 (JEMIMA、会長 西島 剛志)は、当工業会の統計データをもとに2024年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2020～2024年度」を発行いたしました。

【概要】

電気計測器全体(国内売上+輸出)の2019年度は、「5G」に関連する通信用測定器が堅調な伸びを見せているものの、米中貿易摩擦の影響や各国での半導体製造装置の需要低下、電力量計のスマートメーター切り替え需要の一巡による減少傾向継続などにより、6,556億円(前年度比+1.3%)の見込みに対して、実績は5,865億円(前年度比-9.4%)と前年度比で608億円のマイナスでした。製品群別では、「電気測定器(一般)、放射線計測器」は前年度比でプラスでしたが、「半導体・IC測定器、PA計測制御機器、電力量計、環境計測器」は前年度比でマイナスでした。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響や米中貿易摩擦悪化による世界経済の低迷に伴い、製品群別では電気測定器、PA計測制御機器、電力量計、環境計測器、放射線計測器が前年度比マイナスを見込んでおり、トータルでも減少の5,536億円(前年度比-5.6%)を見込みます。

2021年度以降は、マイナス要因として、新型コロナウイルスの影響による世界経済低迷の継続や電力量計のスマートメーターへの取替え需要が引き続き減少する影響が懸念されていますが、プラス要因として、「5G」技術搭載の機器やサービスの増加、データセンター関連機器への投資増加、新型コロナウイルス対策としての化学・医薬分野での需要が期待され、2020～2024年度の年平均成長率は+0.7%とほぼ横ばいと見通しました。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2019年度実績は、国内売上や輸出の減少もあり、前年度比-6.7%の7,890億円となりました。2020年度は、新型コロナウイルスの影響や米中貿易摩擦悪化による世界経済の低迷により、前年度比-6.5%の7,373億円を見込みます。2021年度以降は増加傾向へ転じて2024年度は、2019年度比-3.7%の7,595億円になるものと見通しました。

本日発表の「電気計測器の中期見通し2020～2024年度」は有料で頒布いたします。

発行刊行物：書籍名「電気計測器の中期見通し2020～2024年度」

発行日：2020年12月18日

頒布価格：一般：¥11,000- (税込・送料別)

JEMIMA会員：¥3,300- (税込・送料別)

「電気計測器の中期見通し2020～2024年度」発行・発表会の開催概要：

- 主催：一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- 開催日時：2020年12月18日(金) 13:30～17:00
- 開催形式：Cisco社 Cisco Webex Meetings (Web会議)

【「電気計測器の中期見通し2020～2024年度」の主な内容】

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

